

寺島蔵人邸
企画展

浦上玉堂と寺島蔵人

寺島蔵人は、加賀藩に仕えた武士であるとともに、絵や書を能くする文人としても世に名前を残しており、時には全国から当代一流の文人が蔵人のもとを訪れている。

その中でも秀逸な一人が浦上玉堂(1745~1820)である。備前岡山藩の支藩鴨方藩の大目付にまで進んだ後、50歳のとき脱藩し、子2人と全国を遊歴し、各地で文化人との交流を重ね琴のほか詩作や書画中心の生活を送った。浦上玉堂の代表作「凍雲篩雪図(とううんしせつず)」(川端康成記念会蔵)は国宝に指定されるとともに、この他十数点が重要文化財に指定されるなど江戸時代後期の文人画家の第一人者として知られている。

全国遊歴の途中文化5年(1808)寺島邸を訪れ、蔵人と親しく交流している。

その時、玉堂64歳、蔵人32歳 二人は何を語り合ったのだろうか。

寺島蔵人は、訪れた浦上玉堂を次のように記している「常に琴を弾じ、深く酒を好みて書画を能くす、予が家に宿する二十日計なり、鶴氅衣(かくしょうい)を着し、髪をつかねて笄(こうがい)を

指し、早起酒を飲み、琴を弾ず、夫より詩を作り、書画を楽しむ、その清雅亦他に比するものあらず。」(静斎翁遺文)

その際玉堂が残した絵画4点、書2点を展示する。

浦上玉堂展示作品

- | | |
|---------|-------------------|
| 溪声書声図 | } 9月7日~10月17日展示 |
| 緑染林阜図 | |
| 艇子載春図 | } 10月19日~11月28日展示 |
| 山中読書図 | |
| 扁額 黄松琴処 | |
| 扁額 乾泉 | |

絵画は2点ずつ前後期に分けて展示室にて展示する。座敷と茶室には、他2点の複製を展示する。



浦上玉堂像 浦上春琴
岡山県立美術館蔵

開催
期間

令和4年9月7日(水)~11月28日(月)



寺島蔵人邸

〒920-0912 金沢市大手町10-3
TEL 076-224-2789 FAX 076-204-8076
開館時間 9:30~17:00(最終入館 16:30まで)
休館日 火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)
入館料金 一般310円、65歳以上210円
高校生以下無料

後援/北國新聞社

寺島蔵人邸企画展「浦上玉堂と寺島蔵人」



浦上玉堂が遺した中の代表作
溪声書声図

溪声書声図 浦上玉堂

文化5年(1808)秋、浦上玉堂は、寺島邸を訪れ、蔵人と親しく交流し、書2点、絵4点を遺した。その中の代表作。

当時、玉堂は64歳で、玉堂晩年の画風が完成されつつある時期で、勢いよく走る渴筆を駆使し重厚に迫る山容を表しており、特異な姿の山塊が林立する様も玉堂独自のものといえる。



玉堂は寺島邸で庭を眺めながら、酒を飲み、書画を描き
そして七弦琴を奏でながら過ごしたのだろうか

玉堂の魅力

田能村竹田(玉堂と同時代の文人画家で文筆家)

「竹田荘師友画録」巻下「玉堂老人」より引用

毛髪はすべて白く鬚が数寸も伸び、酒を好み酔っては詩を作り山水を描き、酒に飽きると琴を弾いた。また、朝早く起きて部屋を掃き、香を焚いて琴を弾き酒を三杯飲むのを常とした。

ブルーノ・タウト(ドイツ人建築家)

篠田英雄訳「タウト全集第三巻美術と工藝」(育生社弘道閣、1943)より引用

浦上玉堂! 私の感じに従えば、この人こそ近代日本の生んだ最大の天才である。彼は『自分のために』を描いた、そうせざるを得なかったからである。彼は日本美術の空に光芒を曳く彗星のごとく、独自の軌道を歩んだ、—この点で彼は、ヴァンセント・ヴァン・ゴッホに比することができるであろう。

川端康成(小説家)

「反橋・しぐれ・たまゆら」(講談社、1992)所収の「反橋」より引用

日本の文人画の蕪村、玉堂、竹田、華山なども所詮は末世の人にあつたように思えてなりません。あるいは浦上玉堂は少しちがっているかもしれません。夕日にさす木に鴉の群れが帰る一つの絵など、木は見ようでは燃え立っていると思えますし、鴉は見ようでは気が狂っていると思えますし、ほんとうは南画風に高逸蒼古というような言葉をならべなければならぬのでありましようが、私にはすこぶる近代的なさびしさの底に古代の静かさのかよひの感じがられて身にしみるのであります。



玉堂が琴を弾くために蔵人が増築したとされる四畳の間